

令和3年度 人権週間の取り組みの紹介

(1) 人権週間街頭啓発



12月1日、桂川町役場付近をはじめ町内5ヶ所において、街頭啓発を行いました。

この事業は7月の福岡県人権・同和問題啓発強調月間に合わせて行っていたのですが、コロナウイルス感染拡大防止に伴い本年度は12月の人権週間に合わせて行いました。道行く人や車中の人に声をかけ、市民講座「人権講演会」の案内チラシや啓発グッズ(マスク・ウェットティッシュ)を配布しました。



(2) 桂川町市民講座「人権講演会」 12月5日

「情報×人権」～部落差別を問う～ 講師 組坂 幸喜氏

12月5日住民センターにおいて市民講座「人権講演会」を開催しました。

今回は部落解放同盟筑後地区協議会書記長の組坂幸喜氏を講師に迎え、「情報と人権」～部落差別を問う～という演題で講演をしていただきました。

インターネットによる部落差別の現実、情報化の進展に伴う差別状況の変化を指摘し、その解消に向けた取り組みの強化、これまでの部落差別撤廃に向けた取り組みの課題、「部落差別の現実から深く学ぶ」

この意味を
考える講演
でした。



講演会の様子 組坂幸喜氏



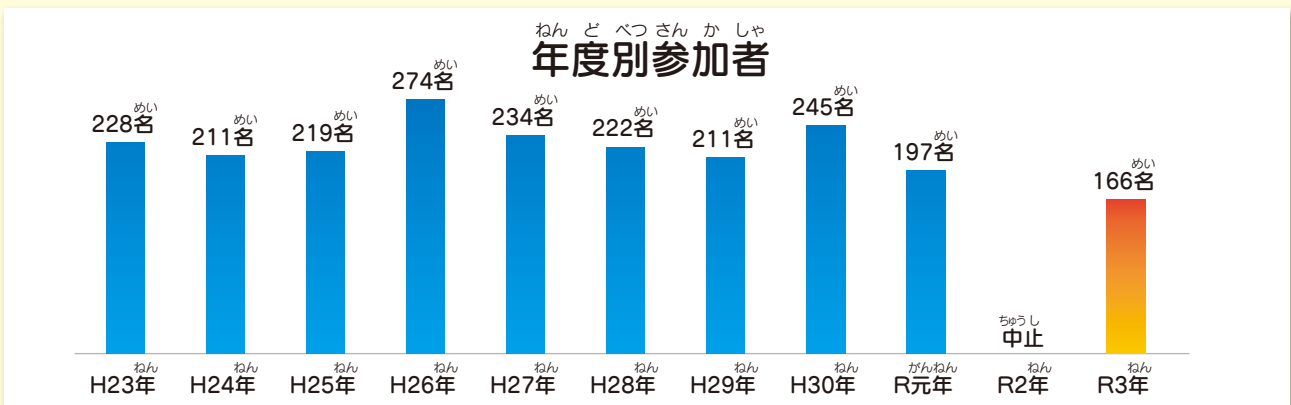
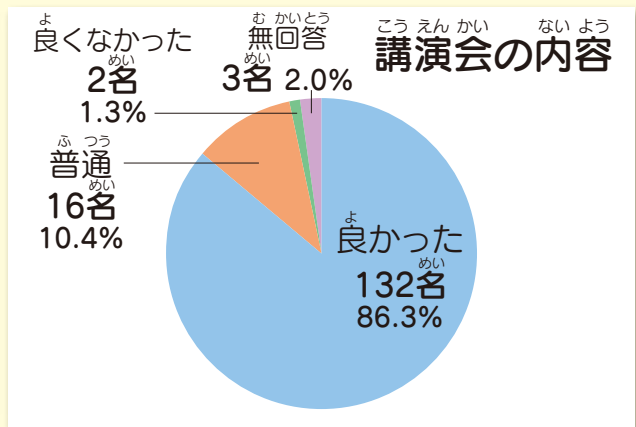
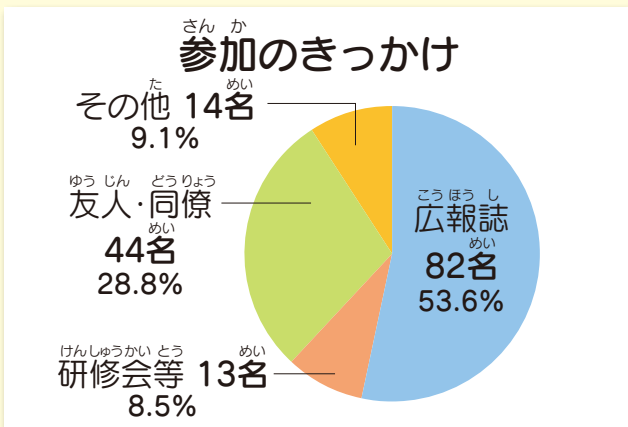
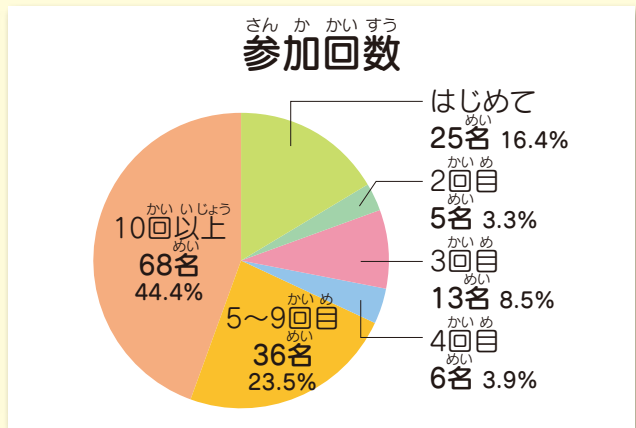
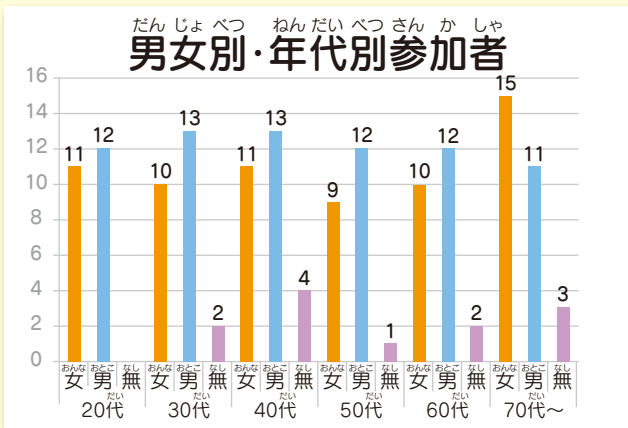
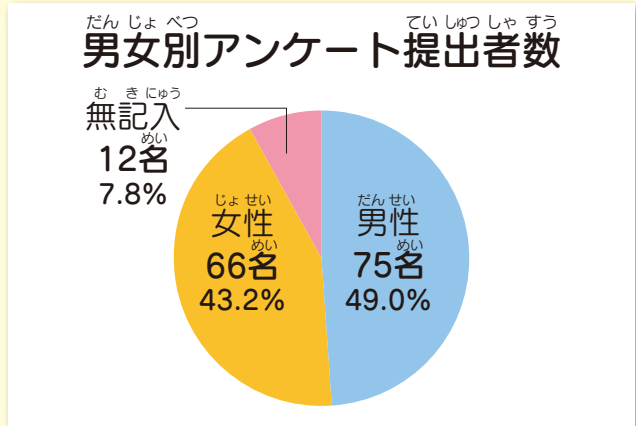
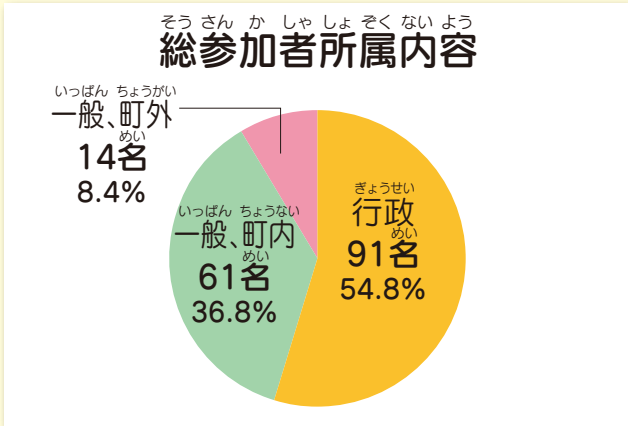
アンケート結果や内容は次ページに掲載しています。

れい わ ねん ど けい せん まち し みん こ う ざ じん けん こ う えん かい
令和3年度桂川町市民講座「人権講演会」

けつ か ぜん たい
アンケート結果(全体)

じょう ほう じん けん くみ さか こ う き し れい わ ねん がつ いつか
「情報×人権」 組坂 幸喜氏 令和3年12月5日

さん か しゃ すう
参加者数
 166名
 アンケート提出者
 153名



令和3年度 桂川町市民講座「人権講演会」



～ 内容・アンケート紹介 ～



今年度の人権講演会において、講師の組坂幸喜さんは、インターネット上で実際に起こっている陰湿な差別について具体的な話をされました。大事なことは、誤情報や二重情報に惑わされないことであって、取り込んだ情報を正しく理解する能力が大切です。

また、インターネット上では多数派に向けての情報発信になりがちであり、少数派の人々を見落とさないために、正しい知識を身に付けて、潜在的な思い込みや偏見に気づいていくことの大切さを語られました。これは人権問題についても同じであり、差別をするような人間になりたくない、なってはいけないという意識を持って、差別の現実を学び、自らの認識と行動を問い続けることが大切です。

会場にいる方も組坂さんの丁寧な語りに聞き入っていたのではないのでしょうか。

たくさんの感想をいただきました。その一部を紹介します。

- 資料など使って説明が分かりやすかった。今日のような分かりやすい、ためになる講師の先生の話を知りたい。
- 差別のおかしさを改めて考えさせられました。気づきが大事でそこから見えてくるものがある。差別を無くす根底には人のやさしさ、学ぶことの大切さを改めて感じました。
- 情報リテラシーについて十分理解できた。インターネット社会の中で、見えなくなっているものがあるということに改めて感じさせられた。今の時代に合った内容だったと思う。人権課題の視野は広がりつつある中、新たな人権課題も出てきている。そのような課題についても、今後お話を聞かせて頂きたいと思う。
- ネットから情報を選択する目と技術が大切だということが良く分かった。
「学ばないと差別を無くすことはできない」と講師が言われた。参加者が固定されて広がらないという意見があるかもしれないが、講演会や懇談会は続けなくてはいけないと思う。学ぶチャンスを町民に提示してほしいから…。

今回の市民講座「人権講演会」を、今後の人権・同和問題の教育や啓発へつなげる必要があると感じました。

※「情報リテラシー」

情報を取り扱ううえでの理解能力、誤った情報や正確でない情報も含めた中から、正しい情報や必要な情報及び情報手段を主体的に選択し、収集活用するための能力と意欲。

アンケートについては、できるだけ原文のまま掲載しています。